
冬の帰り

稲羅まつ子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬の帰り

【Nコード】

N6274Q

【作者名】

稲羅まつ子

【あらすじ】

バスを待つ「僕」の心象

頭の中が真っ白で、何も考えられなくなる。
空を覆い尽くしているひらひらと舞う雪は、叙情的に僕の心に響くけど

世界を白く塗りつぶすように、僕の頭の中の大事な何かをも白く隠していく。

忘れたくないけど、引きずっていたくない

前でバスを持つ女子高生が彼女と重なる。

もう僕の前には現れてくれはずなどないのに。

別れを言い出したのは僕だし、彼女に落ち度はない。

ただもう二人の世界が変わってしまった。

誰が変えたのかは明らかだけど。

今更、いろんな思い出が頭によぎる

楽しかったシーンばかり。

二人で笑いあった瞬間

二人で奇麗な夕日を見て、顔を見合わせた瞬間。

何分か遅れて、やっとバスがやってきて野ざらしの寒空から救われる。

僕の心はいつ開放されるのだろう。

バスの中の年末の募金の広告

不運な処遇の子供たち。僕の悲しみなんて小さなものなのだろう
食うに困るわけでもないし、両親は生きていて、僕を学校にやれる
だけの経済状態は保っている。

僕の心を埋め尽くしているのは、自分の小さな小さな世界のことだけ
世界は不公平で、僕は身勝手だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6274q/>

冬の帰り

2011年2月7日07時55分発行